



イベント紹介

医療法人協和会 看護フェア 『あなたの健康を応援します』
平成27年11月11日（水）12：30～16：30（開場12：30～）
会場：アステ川西1階 ぴいぶら広場

医療法人協和会 看護フォーラム
平成27年11月11日（水）13：00～15：00（開場12：30～）
会場：アステ川西6階 アステホール

第二協立病院 ふれあいフェスタ
平成27年11月21日（土）13：00～16：00
会場：第二協立病院

【編集後記】

第二協立病院は、回復期医療と慢性期医療、緩和医療を担う入院専門病院として開院し、まもなく13年目を迎えようとしています。2年前には、地域ニーズにもっと対応できるよう増築し、回復期リハビリテーション病棟、障害者一般病棟を増床すると共に、産科・小児科を開設しました。今や当院が地域に果たすべき役割は、非常に重要なものと認識しています。私たちは、これからも一層地域との連携を強め、より地域に根付いた医療機関であることが求められると考えています。

地域の方々や近隣の医療機関・介護施設とのさらなる連携推進を図る目的で、今年4月に地域連携推進委員会を発足させ、第二協立病院をもっと地域に知っていただくための活動を強化しています。主な活動内容は、地域住民の方々を対象にした各種フェスタの企画・開催や、広報誌の発行をはじめ、病院パンフレットやホームページの見直し、また近隣医療機関にスムーズに連携いただけるよう当院の紹介活動などもしています。幅広い活動内容だけでなく、委員会メンバーだけではなく、第二協立病院職員あがりの活動として取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



地域連携推進委員会 委員長 尼岸 正行

イベントチーム



西尾 玲子

11月21日に当院にてふれあいフェスタを開催します。
みなさまふるってご参加下さい。

営業チーム



看護部長
西森 久江



濱田 晴江

新しい地域連携推進委員会メンバーはやる気充分！
皆様ご協力宜しくお願い致します。

広報チーム



長井 由佳



高橋 亮太



園 愛子

広報誌のネーミングを募集します。
名付け親になってください。
宜しくお願いします。

【院長就任のご挨拶】

院長 福田 能啓



日頃より第二協立病院をご支援いただき、感謝申し上げます。

平成27年4月より、当院の病院長に着任いたしました。この3月末までは兵庫医科大学地域総合医療学講座を担当し、「兵庫医科大学ささやま医療センター」ならびに「兵庫医科大学ささやま老人保健施設」において地域医療の一翼を担わせていただきました。ご縁があって、第二協立病院で働ける機会を頂戴いたしました。

もともとは消化器内科が専門ですので「ヘリコバクターピロリ」「潰瘍性大腸炎やクローン病」の研究や診療に従事させていただきました。また、日本静脈経腸栄養学会の指導医としてNSTの推進に少しでもお役に立てればとも思っております。

平成27年はもう半分まで過ぎてしまいましたが、どんな年になるのでしょうか。今年は干支で申しますと、乙未（きのとひつじ）にあたり、「乙」は曲がりくねった草木の芽が出始めているけれどどちらの方向に向かってゆけばよいのかが定まらない状態をあらわしているようです。「未」は「木」の上に「一」が乗った形で、木に枝葉が出そろいつつある様子を表しています。どんどん生えてくる枝葉（アイデア）は取り入れ、陽の光がくまなく射し込むような枝ぶりにしてゆく必要がある年なのではないでしょうか。

今年は「羊」年とも申します。羊は群れをなして秩序を守りながら行動する動物であり、家族安泰・平和をもたらす吉祥動物とされているようです。ジャワ語で羊のことをberiといい、脚気になると歩き方が羊のようになるので、脚気のことをberiberiと呼んでいます。脚気はビタミンB1欠乏の症状です。美酒に酔い食生活が乱れるとビタミンB1欠乏に陥り、「立ちくらみ」「ふらつき」「食欲不振」「なんとなくしんどい」「足がしびれる」などの症状が出てきます。脱水対策として清涼飲料水を過剰に摂取した場合にも「羊歩き」の「脚気」に陥ってしまうかもしれません。「食生活」に気を付けながら、気を引き締めて「チーム医療」を実践して行ければと思っています。皆様のご指導ご鞭撻、よろしくお願い致します。



病院理念

『信頼と良質な医療』

《基本方針》

- ①良質で効率的な医療を提供します。
- ②安全で信頼される医療を目指します。
- ③患者さん中心の医療を実践します。
- ④説明義務責任を果たします。
- ⑤透明性・情報公開を推進します。
- ⑥良きコミュニケーションと信頼関係を築きます。
- ⑦顧客満足（外部・内部）に努めます。

平成27年度 新入職は総勢45名

<新人紹介>

今年度も総勢45名の新入職者を迎えることができました。

各部署に配属となり、先輩について日々業務を行っています。各部署の入職者は以下の通りです。

- ☆看護師…21名
- ☆薬剤科…1名
- ☆PT…8名
- ☆OT…7名
- ☆ST…4名
- ☆臨床工学科…1名
- ☆MSW…1名
- ☆看護補助者…1名
- ☆病棟クラーク…1名

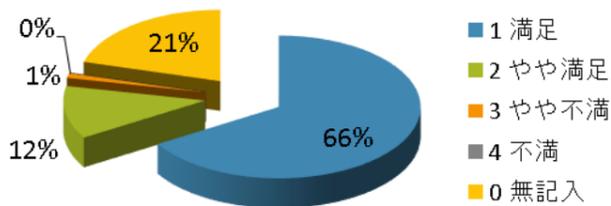


<< 患者サービスアンケート >>

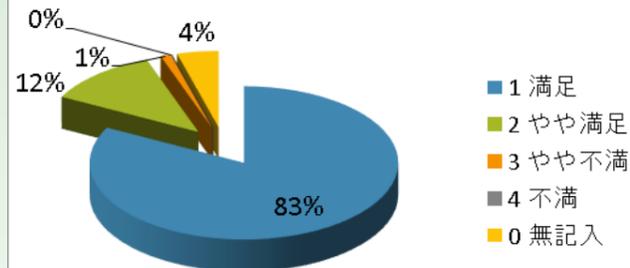
平成27年4月13日から18日の6日間に第二協立病院を利用されている、患者様とその御家族対象に患者満足度アンケートを行いました。外来・入院で配布369名、回収214名で58%の回収率でした。回答者の割合は患者ご本人103人(48.1%)、ご本人以外111人(51.9%)と半々の割合となりました。

当院を利用するきっかけを見ると、外来利用者では自宅や学校・勤務先から近いとの回答が43%を占め立地条件の良さが出ています。反対に入院患者様では他施設からの紹介が70%を占めています。建物・設備に関しては、7割前後の方が満足と回答されています。職員の対応については病棟ごとに幅はありますが6割から8割の方が満足と回答、沢山の意見を頂きました。※結果下記ご参照下さい(一部抜粋)

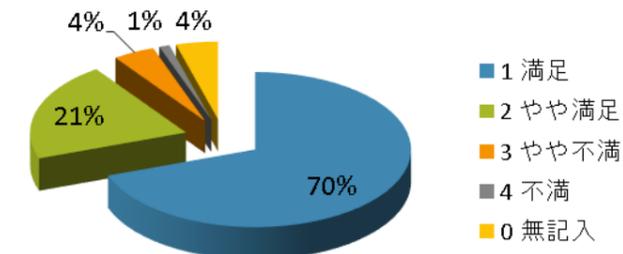
●入院前に家族面談を行った方にお聞きします。その時の相談員(MSW)の印象を教えてください。



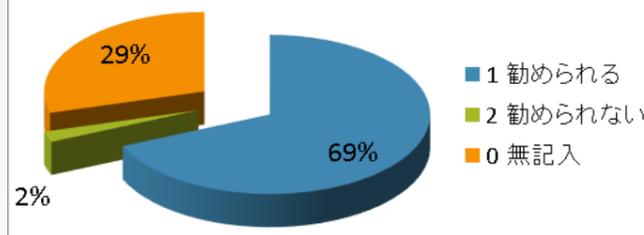
●看護師の態度についてお伺いします。



●医者(主治医)の対応はいかがですか？



●知り合いの方などに当院を勧められますか？



この結果を真摯に受け止め、委員会では患者様が快適に療養生活を送れるよう院内のラウンドを行い、使い勝手の悪い場所や不具合のある場所などを調査、改善し更なる患者サービスの向上に活かしていきたいと思ひます。

患者サービス向上委員会 委員長 山本 康弘

栄養サポートチームが本格始動!!!

第二協立病院で、NST(栄養サポートチーム)の本格的な活動を開始することになりました。

入院中の患者さんは、十分な栄養を摂取できない状態にある方が多く、そのために発生する合併症も多いと言われています。

そういった栄養不十分な状態にある患者さんを早期に発見し、多職種の見点から栄養改善を行い、合併症を回避する。これがNST(栄養サポートチーム)に課せられた任務です。

栄養といえば、「食事」と思われがちですが、食事を口から摂取できない患者さんへのアプローチが一番重要で、「絶食で点滴」や「経管栄養」を行っている患者さんが一番の対象患者さんとなります。そのため、「褥瘡チーム」「感染対策チーム」「摂食嚥下チーム」などのチームと共同することも、NSTの重要なお仕事の一つになります。

様々な専門分野の知識・技術をもった職員と一緒に患者さんの栄養を中心に「多職種共同の輪」を作っていきたいと思ひますので、どうぞ宜しくお願いします。



6階南病棟 NST専門療法士 松末美樹

<<災害食訓練を行いました>>

今回初めて地震を想定した災害食訓練を行いました。参加者は各部署1名ずつ計28名、α米と牛丼の素(缶詰)を使用して30人分の食事を形態別(形・極小刻み・ミキサー)に調理しました。参加者を4グループに分け、食材や食器を倉庫へ取りに行くことから始め、食形態別に加工→加熱→盛り付けまでを行いました。普段、食事介助で食事を目にするのはあってもほとんどの職員が実際に食材を刻むのは初めてで、咀嚼・嚥下しやすくするためにはどの程度まで刻めばよいのか等体験して気付くことが多かったようです。訓練後の感想では、災害時に病棟を離れ他の場所で食事を準備し、またそれらを病棟まで運ぶのは困難なので各病棟に備蓄食材を保管しておきたいという意見や、過去に医療現場で震災を体験した職員からはサララップの有用性等具体的な意見が活発に飛び交い、大変有意義な訓練となりました。いつ災害が発生しても職員の誰もが災害食の調理・配膳に携わることができるよう、今後も訓練を重ね一つずつ構築していきたいと思ひます。

栄養科 主任 北条 素子



☆☆完成品です!!



- ・α米
- ・牛丼の素(食形態:形・極小刻み・ミキサー)

訓練後に試食会も行いました!